



従来の熱や煙の感知ではなく炎に反応する新システム

炎の紫外線に反応

放火検出セキュリティシステム 携帯電話などに通報

無人の建物内で火災が発生した場合に、携帯電話に通報が入る「放火検出セキュリティシステム」が、センサーのシステム製品などを製造するアンテック（邑久郡邑久町豆田、末石建二社長）で開発された。

このシステムは子機のセンサーが炎の光に含まれる紫外線をキャッチし、親機のデータ集積装置からインターネットを通じて、契約者の持つ携帯電話機などに知らせる仕組みとなっている。

従来の火災報知機が高

熱や煙の充満を感知するのに対し、同システムはライターなどの小さな炎でも反応するために早期消火にも役立つ。

子機のセンサーは五

先の二センチほどの炎も感知。屋外にも取り付けられるが、通行人らによる喫煙時の数秒の着火に反応する可能性もあるた

め、炎の出ている連続時間によってセンサーの作動を調整もできる。

価格はデータ集積装置が約六十万円で、装置一体に対して五十個まで接続可能な子機センサーは一機約六万円。末石社長は「放火対策などで寺院などへの設置を勧めたい」と話している。

平成15年7月2日
岡山日日新聞

邑久のメーカーが開発